



食品廃棄物削減の取組



(株)セブン&アイ・ホールディングス 総務部 永井

セブンファームについて



セブンファーム取組みの経緯



【セブンファーム取組みの経緯】

①“リサイクルを進めていきたい”

+

②“農業のお手伝をしたい”

この2点を効率的に実現するために、セブンファームというスキームを採用し、取組みを拡大してきた。



しかし、最も重要なのは、日本の消費者や地域のお客様。セブンファームを通じたお客様との交流や、農業現場を通じて得た農業や流通のノウハウを蓄積し、今後につなげていきたい。

セブンファーム取組みの経緯



①”リサイクルを進めていきたい”

食品循環資源のリサイクルについて

一方で、食品リサイクル法が2007年に改正され、
食品関連事業者の業種別の食品循環資源リサイクル実施率目標値が設定された。

【食品循環資源リサイクル率】

2012年、リサイクル率45%の目標を達成

企業としての社会的責任を果たすため、実現可能性の高い取組みを続けていかなければならない。

●IY 直近のリサイクル率推移

2008年度

リサイクル
実績値

26.5%



2013年度

リサイクル
実績値

47.5%

現在180店舗中90店舗が食品残渣の堆肥化を中心にリサイクルを実施。

セブンファーム取組みの経緯



②“農業のお手伝いをしたい”

農業のお手伝いをしたい！

農業に参入するのではなく、日本の農業を元気にするお手伝いをしたい。
生産者と一緒に効率的かつ生産性の高い農業の仕組みを作っていく。



お客様へ

《役割》
・食品残渣で作られた堆肥を使って作物を栽培。
イトーヨーカドーに出荷。

セブンファーム



店舗



《役割》

- ・食品残渣を堆肥場へ運搬。
- ・セブンファームで栽培した作物を店頭で販売。

《役割》

- ・お店で出た食品残渣を堆肥化处理。

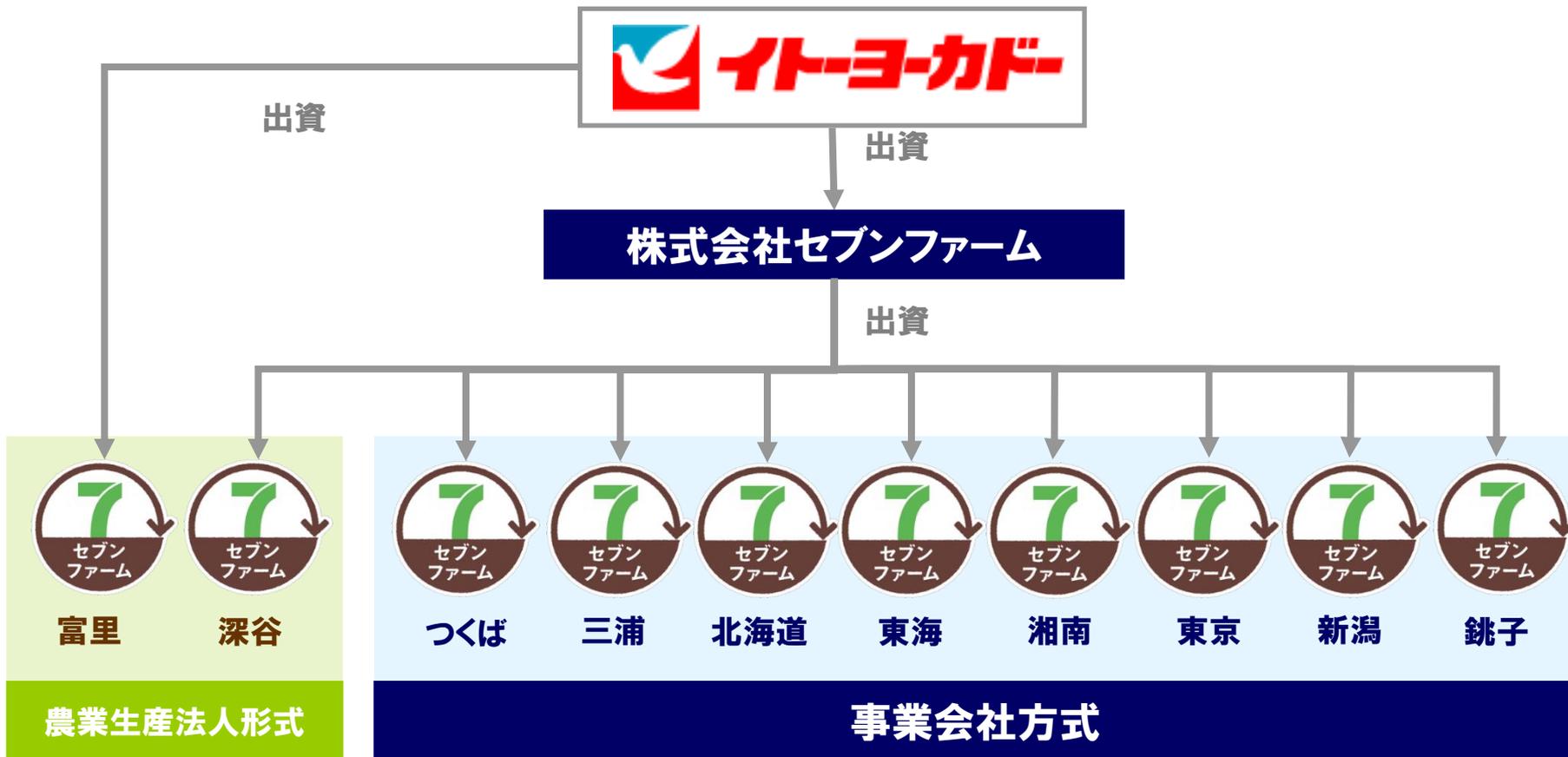
堆肥場



セブンファームの取組み全体



2008年に千葉県富里市にセブンファーム富里を設立し、現在は10拠点に拡大！
深谷・東海で食品リサイクル・ループ認定の取得を準備中



セブンファーム(富里)の取り組み



1. 生販一体となった取り組み

生産

販売

販売の視点で生産の現場を見ることによって、新しい発見あり！

⇒ 双方にとってメリットを生む取り組みを行なっていく。

①社員研修



②規格外品の販売



セブンファーム(富里)の取り組み



2. 地域との交流と食育

LYのお客様や地域の小学生を対象に農業体験の場を提供。



3. 安心安全への取り組み

2009年にJGAP認証を取得。
農業現場に安全・安心および、生産・経営システムの継続的な改善を導入



顔が見える野菜。

× JGAP

●ハード面、ソフト面を整備(マニュアル、ルールの整理)



●JGAP審査員による現地審査



セブンファームのメリット



●セブンファームのメリット

生産者のメリット

安定した取引(=収入)の確保

売場は確保できているので、安定した取引が可能。

作況にあわせた販売が可能

作の良し悪しにあわせて販売の方法を変更できる。
病虫害多い ⇒規格外を説明し販売。
量の多少 ⇒相談しながら販売。

流通コストの削減

近隣の店舗への納品により、物流コストを削減。また、ほぼ直接に近い取引であるため、中間流通コストも大きく削減することが可能。

リアルなマーケティング情報の入手可能

タイムリーにお客様の消費動向を把握できる。
何を作付けしたらいいか、どのような規格が受け入れられるか等の情報を入手可能。

若い世代の農業参加へのお手伝い

世間の注目度が高いため、若い世代が地域農業に関心を持つ機会が増える。
また、企業が農業のお手伝いをすることにより、若い農業者の就農を今後お手伝いすることができる。

イトーヨーカ堂のメリット

リサイクル率の向上

食品循環資源のリサイクル率の目標値(45%)を達成することで社会的責任を果たす。

地域貢献を拡大することにより、FYへのロイヤリティの向上を図る

セブンファームをきっかけに地域農業の活性化を推進していくと同時に、地域住民の収穫体験ツアー等を通じ、地域との交流を果たす。また、これら地域貢献を拡大することによりFYへのロイヤリティの向上を図っていくことができる。

社員教育

セブンファームでの畑作業に店や本部の社員を参加させることにより、社員の知見を広めることが可能。

新しい商品切り口の発見

現場に入り込むことによって、これまで気がつかなかった商品開発の切り口を発見できる。

鮮度のいい商品の確保

近隣のセブンファームから鮮度のいい状態で常時旬の野菜を供給可能。

流通コストの削減

食品リサイクルにおける課題

○コスト面での負担が大きい

- ・自治体処理手数料とリサイクル費用の差が大きい
- ・リサイクル専用の回収ルートが必要



結果として「焼却」した方がお金がかからない

○リサイクル施設の不足

- ・地域に偏りがあり→まったく進んでいない地域も存在
- ・施設の抱える課題が多い→再生品の出口確保・臭気問題



効率的・安定的なリサイクル確保が課題

食品ロス削減の取り組み

「食品ロス削減のための商慣習検討ワーキングチーム」に、平成24年から参加

- 【目的】 食品ロス削減のための商慣習についての検討
- 【構成】 食品製造業9社・食品卸業3社・食品小売業4社、学識経験者
- 【事務局】 流通経済研究所（農林水産省補助事業）

過剰在庫や返品等によって発生する食品ロス等は、個別企業等の取組では解決が難しく、フードチェーン全体で解決していくことが必要。



ワーキングチームを通して商慣習の実態把握・認識の共有を図り商慣習見直しに向け取り組んでいる。

食品ロス削減の取り組み(消費者との連携)

東京都環境局の「食品廃棄物削減キャンペーン」に協賛

26年3月に、都内の4店舗でキャンペーンを実施

【内容】

- ・食品ロスの実態等を紹介するポスター掲示及びリーフレットの配布
- ・食材使いきり料理の試食提供及びレシピの配布
- ・生ごみの水切り実演
- ・食品ロスの実態等を紹介する映像の上映

